

医学教育分野別評価 京都大学医学部医学科 年次報告書

2025(令和 7)年度

医学教育分野別評価の受審 2024(令和 6)年度
受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.3 6
本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.3 6

はじめに

本学医学部医学科は、2024(令和 6)年に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、2025(令和 7)年 2 月 1 日より 7 年間の認定期間が開始した。医学教育分野別評価は受審大学自らが教育における自学の活動を振り返り、問題点を見つけ、外部評価の判定を基にその体制や教育プログラムを改善していくことをその目的としている。そのため認定期間においてはただ漫然と次回の評価を待つのではなく、常に継続的な改善計画を検討し進捗状況を確認することが望まれる。このような観点から、医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.3 6 を踏まえ、2025(令和 7 年)年度の年次報告書を提出する。なお、本年次報告書に記載した教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、2024(令和 6)年 6 月 8 日～2025(令和 7)年 3 月 31 日を対象としている。また、重要な改訂のあった項目を除き、医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.3 6 の転記は省略した。

1. 使命と学修成果

領域 1.1 における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、入学前の受験公募要項や入学後の「教科の手引き」に使命が記載されていることを確認し、今後さらに周知を進めるための方策について検討した。

領域 1.3 における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、2024 年度 KUROME(Kyoto University Retreat on Medical Education: 京都大学医学教育ワークショップ)において、評価可能なコンピテンシーの策定とそれに関連した学修成果の見直しを重要なテーマとして、医学部全教授によるグループワークを実施した。

議論の内容を踏まえた評価可能なコンピテンシーの策定と学修成果の見直し、そしてそれらの周知が今後の課題といえる。

1.1 使命

基本的水準	適合
-------	----

特色ある点

「医療の第一線で活躍する優秀な臨床医、医療専門職とともに、次世代の医学を担う医学研究者、教育者の養成を責務とする」を理念と目標として定め、京都大学医学部の使命としてウェブサイト、医学部医学科概要、教科の手引き等に明示して周知を図っている。

改善のための助言

- ・使命について教職員や学生などへの周知をさらに進めるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2024 年度には、入学前の受験公募要項や入学後の「教科の手引き」に使命が記載されていることを確認し、今後さらに周知を進めるための方策について検討した(資料 1-1)。2025 年度以降については、以下を計画している。

学生への周知:①新入生ガイダンスの際に改めて明示する、②1 年生の必修科目である早期体験実習の中で使命についての Discussion の時間を設ける。

教員への周知:①臨床教育小委員会において改めて使命を確認する、②教育に関する教室に連絡し、特に新任教員に対して使命を確認させるよう通達する。

改善状況を示す根拠資料

資料 1.1-1.医学教育検討 WG 議事要旨(2025 年 1 月 7 日)

質的向上のための水準	適合
特色ある点	
・ 使命としての理念と目標に、医学研究の達成、国際的健康、医療の観点が包含されている。	
改善のための示唆	
・ なし	
関連する教育活動、改善内容や今後の計画	
京都大学が掲げる自由の学風と研究を重視する伝統の幹は崩すことなく、使命は軽々に変更されることはない。一方で医学部の使命とは社会との関係性なくしてあり得ないため、京都大学医学部の掲げる使命が時代に即したものであるかは必要に応じて定期的に確認を行い、見直しを検討する。	
改善状況を示す根拠資料	

1.2 大学の自律性および教育・研究の自由	
基本的水準	適合
特色ある点	
・カリキュラム作成、資源配分については医学部の自律性が確保されている。	
改善のための助言	
・なし	
関連する教育活動、改善内容や今後の計画	
カリキュラムの作成・改編に関しては、カリキュラム委員会、学務委員会と最終決定機関である教授会が担っている。作成・改編は、医学部教授を中心とした各種ワーキンググループや教育プログラム評価委員会、医学教育・国際化推進センターの提案などを踏まえて、自律的に行われている。この過程において、他者からの干渉は許しておらず、医学部としての組織自律性を保持している。今後もこのような体制を維持していく。	

改善状況を示す根拠資料

質的向上のための水準	適合
医学部は、以下について教員ならびに学生の教育・研究の自由を保障すべきである。	
<ul style="list-style-type: none"> ・現行カリキュラムに関する検討(Q 1.2.1) ・カリキュラムを過剰にしない範囲で、特定の教育科目の教育向上のために最新の研究結果を探索し、利用すること(Q 1.2.2) 	
特色ある点	
<ul style="list-style-type: none"> ・「KS-CoM」の学生が「医学教育・国際化推進センター」の教員と毎月意見交換や情報共有を行い、教学に関わる各種委員会で意見を述べていることは評価できる。 	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> ・なし 	
関連する教育活動、改善内容や今後の計画	
<p>学生からの意見をカリキュラムに反映させるために、医学教育・国際化推進センターによるアンケート等のフィードバック、さらに学生組織である「KS-CoM(Kyoto University Student Committee for Medical Education)」がある。本学生組織は、カリキュラムを含めた医学教育全般を学生側から考える組織として2012年に設立され、教員と学生とのコミュニケーションを円滑にする目的で構築された。KS-CoMと医学教育・国際化推進センターは毎月1回程度の意見交換や情報共有を行っている。KS-CoMの構成員は、KUROMEや学務委員会、カリキュラム委員会、教育プログラム評価委員会、臨床教授等協議会に参加し、カリキュラムに対する学生からの意見を述べている。今後もこのような、学生の医学教育に対する自主的な関わりを支援していく予定である。</p>	
改善状況を示す根拠資料	

1.3 学修成果	
基本的水準	適合
特色ある点	
<ul style="list-style-type: none"> ・8項目からなる「卒業時アウトカム(学修成果)」を定めている。 	
改善のための助言	
<ul style="list-style-type: none"> ・学修成果として評価可能なコンピテンシーが策定されておらず、コンピテンシーを策定して学生の学修成果到達を確認しながらアウトカム基盤型教育を確実に実践すべきである。 ・学修成果について教職員や学生などへの周知をさらに進めるべきである。 	
関連する教育活動、改善内容や今後の計画	

2024 年度 KUROME (Kyoto University Retreat on Medical Education: 京都大学医学教育ワークショップ)において、評価可能なコンピテンシーの策定とそれに関連した学修成果の見直しを重要なテーマとして、医学部全教授によるグループワークを実施した(資料 1.3-1, 1.3-2)。2025 年度はこの議論内容を基に、評価可能なコンピテンシーを策定し学修成果の修正を行う。さらにその後、これらを広く学生・教職員にアナウンスし、教員に対する FD を行っていく。

改善状況を示す根拠資料

資料 1.3-1.2024 年度 KUROME プログラム

資料 1.3-2.2024 年度 KUROME グループワーク 1 資料

質的向上のための水準	適合
特色ある点	
<ul style="list-style-type: none"> 卒業時までに獲得すべき学修成果と、臨床研修の到達目標は関連づけられており、卒前教育を担当する学務委員会と附属病院の医師臨床研修管理委員会が連携を図っている。 医学研究、国際保健に関する学修成果が明確にされている。 	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> なし 	
関連する教育活動、改善内容や今後の計画	
前述の評価可能なコンピテンシーの策定に伴う学修成果の修正の際にも、「卒業時までに獲得すべき学修成果と臨床研修の到達目標の関連づけ」「医学研究、国際保健に関する学修成果の明示」を引き続き意識し、特色が失われないよう留意する。また、引き続き、卒前の教育にかかる学務委員会が連携し、お互いを意識した運営を継続する。2025 年度も医学教育・国際化推進センター副センター長が臨床研修の研修管理委員長／医師臨床教育・研修部長を兼務の予定である。	
改善状況を示す根拠資料	

1.4 使命と成果策定への参画	
基本的水準	適合
特色ある点	
<ul style="list-style-type: none"> 使命および学修成果の見直しを審議する委員会に他医療職種が参画している。 	
改善のための助言	
<ul style="list-style-type: none"> なし 	
関連する教育活動、改善内容や今後の計画	
京都大学では、一巡目審査時点では使命および学修成果の見直しを審議する委員会に広い範囲の教育関係者が参画できる体制が整っていなかった。そこで改善のための示唆を受け、2022 年からは教育プログラム評価委員会を組織し、他の医療職(看護師)を含めた多職種が直接参画できるようになっていく。このような特色を今後も維持していく予定である。	
改善状況を示す根拠資料	

質的向上のための水準	部分的適合
特色ある点	
改善のための示唆	
使命と学修成果の策定、見直しには患者代表、地域医療代表者など、より広い範囲の教育の関係者から意見を聴取することが望まれる。	
関連する教育活動、改善内容や今後の計画	
<p>2024 年度には JACME2 巡目審査を受け、改めて看護師（「他の医療職」）、他大学の教育部門責任者（「他の教育活動の代表者」）、研修センター准教授（「卒後医学教育関係者」）を含む教育プログラム評価委員会において、使命と学修成果の見直しについて討議した（資料 1.4-1）。これを基に前述の通り、KUROME においてのグループワークが行われた。</p> <p>今後はさらに広い範囲の教育の関係者として、患者・患者団体の意見を聴取できる会の設置を検討する。具体的には、教育プログラム委員会の下部組織として、医学教育・国際化推進センターと京大模擬患者会（半数以上が実際の患者経験を持つ）との会議体もしくはワーキンググループの設置を附議する予定である。</p>	
改善状況を示す根拠資料	
資料 1.4-1.2024 年度教育プログラム評価委員会議事要旨	

2. 教育プログラム	
<p>領域 2.5 における「改善のための助言」を受け、R7 年度からの臨床実習の運用について見直しと改善を行った。また、連続した実習期間の確保について、医学部の全教授が参加する教授会 FD である KUROME（Kyoto University Retreat on Medical Education）においてグループワーク形式で議論を行った。また、文部科学省の高度医療人材養成拠点形成事業の採択を受け、当該事業の大きな目的の一つを「参加型臨床実習の促進」と捉え、上記の学部教育部門長が臨床教育体制強化責任者として事業の 2 本柱の一つを担い、診療参加型臨床実習の推進に向けた活動を実施している。</p> <p>領域 2.7 における「改善のための助言」を受け、カリキュラム委員会を「カリキュラムの立案と実施に権限を持つ委員会」として再編した。</p> <p>領域 2.8 における「改善のための助言」を受け、卒前・卒後の連携をより強化した。</p> <p>本学附属病院における診療科の多様性や自主研究プログラムなどのカリキュラムの良さを失わない形で如何に診療参加型臨床実習を推進できるかという点を引き続き慎重に検討していく必要がある。</p>	
2.1 教育プログラムの構成	
基本的水準	適合

特色ある点
・なし
改善のための助言
・なし
関連する教育活動、改善内容や今後の計画
改善状況を示す根拠資料

質的向上のための水準	適合
特色ある点	
・なし	
改善のための示唆	
・なし	
関連する教育活動、改善内容や今後の計画	
改善状況を示す根拠資料	

2.2 科学的方法	
基本的水準	適合
特色ある点	
・「MD 研究者育成プログラム」や「マイコース・プログラム」を通じて医学研究を推奨していることは評価できる。	
改善のための助言	
・なし	
関連する教育活動、改善内容や今後の計画	

選択カリキュラムである MD 研究者育成プログラムは医学研究に興味を持つ学生に 1 年次から最先端の医学研究に従事できる機会を提供するものである。当該プログラムでは、研究室での活動開始までに基礎的手法の習得を目的に、プログラム学生を対象に「基礎分子生物学実習」を実施しているが、令和 7 年度からはその内容を時代に即したものに刷新し、ウェット実験だけでなくドライ実験についても学べる機会とする予定である。

マイコース・プログラムは、4 年次学生を各研究室や海外を含む連携機関に一定期間（必修 8 週間、その後の選択期間約 4 週間、さらに夏季休業期間との連続を推奨）配属して、医学研究法、研究活動に直接触れて学ぶプログラムである。指導教員によるレポート作成指導等を徹底し、医学研究に必要な論理展開、実験計画等の理解を促している。今後は、このときの活動を Research Map に登録するなど、研究活動のポートフォリオを作成し将来の研究活動に繋げていくことを支援する予定である。

改善状況を示す根拠資料

質的向上のための水準

適合

特色ある点

- ・ノーベル賞受賞者など最高峰のロールモデルを目に見る機会を含む講義群を設けている。

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

本学では、毎年特別講義として、日本を代表する研究者、ノーベル賞受賞者など最先端の研究と最高峰のロールモデルを目に見る機会を含む講義群を設けている。これは本学の特性を活かした、独自性のある、そして先端的な研究の要素を含むカリキュラムであり、今後も継続していく予定である。

改善状況を示す根拠資料

2.3 基礎医学

基本的水準

適合

特色ある点

- ・なし

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

改善状況を示す根拠資料	

質的向上のための水準	適合
特色ある点	
・なし	
改善のための示唆	
・なし	
関連する教育活動、改善内容や今後の計画	
改善状況を示す根拠資料	

2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学	
基本的水準	部分的適合
特色ある点	
・臨床実習で経験した症例を医療倫理の視点で検討する機会を設けている。	
改善のための助言	
・体系的な行動科学のカリキュラムを策定し、確実に実践すべきである。	
関連する教育活動、改善内容や今後の計画	
本学では、系統的な講義による教育だけではなく、問題解決能力を涵養すべく、事例を通じて考察するなど医療倫理に関して議論出来る機会を4年次から6年次まで継続的に設けている。臨床実習前には人間健康科学科及び薬学部の学生と多職種連携によるワークショップで事例を検討する機会がある。臨床実習中に遭遇した医療倫理に関する事例を深める機会が5年次の地域医療・総合診療の実習中の振り返りで設けられており、臨床実習終了後の6年次にも人間健康科学科と合同でのワークショップを実施している。	
体系的な行動科学のカリキュラム策定に向けては、行動科学ワーキンググループを設置し、行動科学のカリキュラム編成について社会医学系教員と検討を行っている。2巡目審査後に担当者の異動もあつたため、R7年度から改めて行動科学ワーキンググループを再編した上で定期開催し、体系的な行動科学のカリキュラム策定に向けて議論を行う予定である。	
改善状況を示す根拠資料	

質的向上のための水準	適合
特色ある点	
・現在および将来的に社会や保健医療システムにおいて必要と予測されることを同定し、カリキュラムの調整および修正を行っている。	
改善のための示唆	
・なし	
関連する教育活動、改善内容や今後の計画	
改善状況を示す根拠資料	

2.5 臨床医学と技能	
基本的水準	部分的適合
特色ある点	
・なし	
改善のための助言	
・学外実習病院での実習内容を把握し、臨床実習を実施すべきである。 ・臨床医学において、全員が確実に健康増進と予防医学の体験ができるようにカリキュラムを定め、実践すべきである。 主要な診療科では十分に連続した実習期間をとり、診療参加型臨床実習を行うべきである。	
関連する教育活動、改善内容や今後の計画	
R7 年度からの臨床実習予定表運用再開に向けて議論を行い、臨床実習担当診療科へ通達した。また、経験症候・経験症例についての一覧性のあるシートの運用を準備し、R7 年度臨床実習マニュアル原稿に組み入れた。健康増進と予防医学の体験に関しては、R6 年度教授会 FD KUROME での議論をもとに、現在臨床実習を行っている診療科に対してこれらの体験が提供可能か調査を行う方針とした。 連続した実習期間の確保については、2024 年 12 月に、医学部の全教授が参加する教授会 FD である KUROME (Kyoto University Retreat on Medical Education)において、「主要な診療科では十分に連続した実習期間をとり、診療参加型臨床実習を行うべきである。」という点についてグループワーク形式で議論を行った。カリキュラム全体への影響や、連続参加週数を増やすことで附属病院の有する多様な診療科への参加が限定されてしまうことのデメリットについても活発に議論が交わされた。さらに連続した実習期間を取ることの目的である診療参加型実習を促進する方策についても、単純な実習期間の増加以外の方策が無いかという議論が行われた。このグループワークのプロダクトを元に 2025 年 1 月以降、臨床教育小委員会における委員長、兼学部教育部門長を中心に医学教育検討WGにおいて継続した議論を行っている。	

また、単純な実習期間増加の方策とはやや異なるものの、文部科学省の高度医療人材養成拠点形成事業の採択を受け、当該事業の大きな目的の一つを「参加型臨床実習の促進」と捉え、上記の学部教育部門長が臨床教育体制強化責任者として事業の2本柱の一つを担い、診療参加型臨床実習の推進に向けた活動を実施している。(資料 2.5-1)

改善状況を示す根拠資料

資料 2.5-1.京都大学 K-NEXT パンフレット

質的向上のための水準	部分的適合
特色ある点	
・地域医療・総合診療における臨床実習の振り返り時には、現状の保健医療システムや地域医療の課題や展望について検討している。	
改善のための示唆	
・1年次のみならず、2・3年次を含め早期から患者と接触する機会を持ち、徐々に実際の患者診察への参画を深める事が望まれる。	
関連する教育活動、改善内容や今後の計画	
本学では、地域医療・総合診療実習で地域医療と関連する学外臨床実習を地域病院で実施している。地域医療・総合診療の実習の振り返り時には、現状の保健医療システムや地域医療における課題について共有し、少子高齢化社会における地域医療の展望についても検討している。学生は、地域医療・総合診療で感じた人文社会科学的な問い合わせプレゼンすることを通して、社会や保健医療システムにおける課題と将来予測を考える機会になっている。このような取り組みは同級生と離れて行うことの多い地域医療実習の直後に仲間と情報共有をし、学び合いと内省を促す効果も有しており、今後も継続していく予定である。 また、早期から患者と接触する機会を持つことについては、R7 年度から早期体験実習1(1 年次)の強化を行うこと、臨床教育小委員会を中心に3 年次科目の中で患者と接触する機会を持たせられるかの検討を行うことを決定した。	
改善状況を示す根拠資料	

2.6 教育プログラムの構造、構成と教育期間

基本的水準	適合
特色ある点	
・なし	
改善のための助言	
・なし	
関連する教育活動、改善内容や今後の計画	

改善状況を示す根拠資料

質的向上のための水準	部分的適合
特色ある点	
・選択カリキュラムとして、「MD 研究者育成プログラム」、「MD-PhD コース」、「イレクティブ臨床実習」などを提供していることは評価できる。	
改善のための示唆	
<p>・関連する科学・学問領域および課題の水平的統合教育をさらに推進することが望まれる。 ・基礎医学、行動科学および社会医学と臨床医学の垂直的統合教育をさらに推進することが望まれる。</p>	
関連する教育活動、改善内容や今後の計画	
<p>医学部医学科の教育カリキュラムの多くは必修科目となっているが、選択カリキュラムとして学生のキャリアデザインの参考となるようなプログラムやコースを準備している。具体的には 1 年次から MD 研究者育成プログラム、また 4 年次からは MD-PhD コースを提供している。MD-PhD コースでは 4 年終了時に学部課程を休学し、医学研究科・医学専攻に入学し、学位研究終了後に学部課程 5 年次に復学することが可能である。また、MD 研究者育成プログラムを修了し学部卒業後 2 年以内に基礎系大学院に入学した者は、大学院早期修了を可能とする卒後進学型 MD-PhD コースに進むことも可能である。その他、必修科目の中でも学習先を選択できる機会を多く提供している。臨床実習においては選択臨床実習であるイレクティブ実習を計 14 週に拡充しており、この期間は学内外、国内外を問わず、学生の希望に応じた実習先を選択できる。イレクティブでは臨床系、基礎系、社会健康医学系の研究室での実習も可能としている。これらの取り組みは、選択科目を活かし自主性を重視する形で研究実践を通じた「関連する科学・学問領域および課題の水平的統合」と「基礎医学、行動科学および社会医学と臨床医学の垂直的統合」を目指すものである。今後もこのような形で、京都大学医学部のこれまでの実績を活かして今後も日本、世界をリードする基礎医学、臨床医学研究者を輩出すべく、学生に多様で実践的なキャリアデザインを行う機会を提供する。そのためにも引き続き、学内外・国内外との調整・連携に努める予定である。</p>	
改善状況を示す根拠資料	

2.7 教育プログラム管理	
基本的水準	部分的適合
特色ある点	
・なし	
改善のための助言	

- ・カリキュラムの立案と実施に責任と権限を持つ委員会に学生の代表を含めるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

カリキュラム委員会を「カリキュラムの立案と実施に権限を持つ委員会」として再編し、その構成員に学生の代表を含めることを明示した。また、その際に学生代表を複数名、複数の学年に渡って選出することとした。(資料 2.7-1)

改善状況を示す根拠資料

資料 2.7-1.カリキュラム委員会内規

質的向上のための水準

部分的適合

特色ある点

- ・なし

改善のための示唆

・カリキュラムの立案と実施に責任と権限を持つ委員会には、患者、公共ならびに地域医療の代表者など広い範囲の教育関係者を含むことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

カリキュラム委員会を「カリキュラムの立案と実施に権限を持つ委員会」として再編し、その構成員に「その他、委員会が必要と認めたもの」を含められることを明示した(資料 2.7-1)。今後、さらに「広い範囲の教育関係者」を含めることの検討を行っていく予定である。

改善状況を示す根拠資料

資料 2.7-1.カリキュラム委員会内規

2.8 臨床実践と医療制度の連携

基本的水準

適合

特色ある点

- ・なし

改善のための助言

・卒前教育と卒後の教育・臨床実践について、さらに連携をとってシームレスな医学教育を適切に行うべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

附属病院の総合臨床教育・研修センターにおいて見出された研修医の課題を卒前教育に反映すべく、同センターの会議内容の一部を医学教育・国際化推進センターにフィードバックする体制を構築した(資料 2.8-1)。また、総合臨床教育・研修センター有するクリニカルシミュレーションセンターにおいて、学部生全員が卒前にシミュレーターを活用し学修する機会を設けた(資料 2.8-2)

改善状況を示す根拠資料

資料 2.8-1.学部教育部門会議における議題構成および情報共有方針に関する内規

資料 2.8-2.2025 年 1 月医学生による臨床手技習得実習

質的向上のための水準	部分的適合
特色ある点	
・なし	
改善のための示唆	
・卒業生が将来働く環境からの情報、地域や社会の意見を取り入れて、教育プログラムを適切に改良することが望まれる。	
関連する教育活動、改善内容や今後の計画	
卒業生が所属している病院に対するアンケートもしくはインタビューについて、R7 年度の状況を踏まえて方法や項目の検討を行うこととした。また、地域や社会の意見として、患者視点での意見を取り入れる機会を合わせて検討することとした。これらは医学教育検討ワーキングにて議論を進めることとなった。	
改善状況を示す根拠資料	

3. 学生の評価

領域 3.1 における「改善のための助言」を受け、低学年を含めた学生行動規範を策定した。

領域 3.2 における「改善のための助言」を受け、学修成果の見直しを行った。

特色ある点のさらなる発展として、臨床実習の評価における「アンプロフェッショナル評価」を、学習者支援と患者安全に一層資するものとするため、「心配な学生/行動」の報告も可能な様式へ改良し、報告者が些細な気づきも報告しやすくした。

今後も Assessment Driving Learning や Programmatic Assessment のような理論的枠組みを踏まえ、学習者の成長をさらに促す評価となるよう、改良を続けていく必要がある。

3.1 評価方法

基本的水準	部分的適合
特色ある点	

- ・臨床実習の評価における「アンプロフェッショナル評価」は、判定基準および対応方針が明示され、着実に運用されている。

改善のための助言

- ・臨床実習の合否基準を明確に開示すべきである。
- ・低学年から知識、技能および態度を適切に評価すべきである。
- ・臨床実習では、診療現場における客観的かつ妥当性のある評価を充実すべきである。
- ・学生の評価の内容について外部の専門家によって精密に吟味されるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

臨床実習の評価における「アンプロフェッショナル評価」をさらに学習者支援と患者安全に資するものとすべく、「心配な学生/行動」の報告も合わせた様式とし、報告者が小さな気づきも報告しやすいよう改良した(資料 3.1-1)。低学年を含めた技能および態度の基準として、「京都大学医学部医学科学生行動規範」を策定した(資料 3.1-2)。今後は、臨床実習の手引きに客観的かつ妥当性のある評価について記載するなど、臨床実習の評価体制を改善していく予定である。

改善状況を示す根拠資料

資料 3.1-1. 学生のアンプロフェッショナルな行動の評価

資料 3.1-2. 学生行動規範

質的向上のための水準

部分的適合

特色ある点

- ・「マイコース・プログラム」で海外留学する際の留学先指導者による評価方法を定めている。

改善のための示唆

- ・評価方法の信頼性と妥当性を十分に検証することが望まれる。
- ・臨床実習では、Mini-CEX、360 度評価、DOPS など、臨床現場での評価を十分に導入することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

本学では、4 年次でのマイコース・プログラムで海外留学を行う学生に対し、留学先の教員にレポートのチェックを依頼することを推奨している。これは教育体制の異なる客観的な視点からの評価を得ることが、学生にとって非常に貴重な「外部評価者」からの形成的評価の機会となるためである。この意義を引き続き留学先教員に正しく伝え、評価を頂けるよう依頼する予定である。

1～4年次の専門科目については、教員相互のシラバスチェックを継続するとともに、試験妥当性セルフチェックシートの作成を開始した。R7 年度以降、試験作成時のガイドとして担当教員に配布予定である。また、臨床実習の評価については Mini-CEX、360 度評価、DOPS などを臨床実習の手引きに盛り込み、これらの形成的評価の使用方法と意義についての FD を展開していく方針である。

改善状況を示す根拠資料

3.2 評価と学修との関連	
基本的水準	部分的適合
特色ある点	
・なし	
改善のための助言	
<ul style="list-style-type: none"> ・学生が目標とする学修成果を達成していることを体系的に評価すべきである。 ・形成的評価と総括的評価の適切な配分により、学生の学修を促進すべきである。 	
関連する教育活動、改善内容や今後の計画	
<p>アウトカム基盤型教育の実践に向けた適切なコンピテンシー策定のため、医学部教授会 FD (KUROME)において学修成果の見直しを行った(資料 3.2-1)。今後、新学修成果の策定に續いてマイルストーンを設定し、体系的な評価に繋げていく。また、形成的評価と総括的評価の適切な配分及び学修を促進する評価について、オンデマンド FD を作成していく方針を決定した。さらに R7 年度には、「形成的評価と総括的評価のバランス」について教員と学生が討議する機会も設ける予定である。</p>	
改善状況を示す根拠資料	
<p>資料 3.2-1.2024 年度 KUROME グループワーク 1 資料.pdf</p>	

質的向上のための水準	部分的適合
特色ある点	
・評価結果に基づいたフィードバックを行う体制が構築されている。	
改善のための示唆	
・学生に対して、評価結果に基づいた時機を得た、具体的、建設的、そして公正なフィードバックを確実に行なうことが望まれる。	
関連する教育活動、改善内容や今後の計画	
<p>全学共通科目では、定期試験後にフィードバック期間が設けられ、建設的にフィードバックが行われる体制が整っている。専門科目においても科目ごとにフィードバックを行うこととし、その内容や方法をシラバスに記載することを決定し、2023 年度の試行期間を経て 2024 年度より全科目で実施している。今後はフィードバック実施方法に対する学生アンケートを収集・検証し、継続可能かつ意義の高いフィードバック方法を共有する予定である。</p>	
改善状況を示す根拠資料	

4. 学生

本学では一般選抜に加え、将来、世界をリードできる人材を選抜する特色入試を行っている。さらに学生が主体的に医学教育体制を改善していくための「医学教育を考える学生有志の会:KS-CoM」が活動しており、学生と教員が連携して社会に貢献できる人材を育成していくための体制が存在する。これらの特色ある取り組みを今後も続ける予定である。

また、領域 4.4 における「改善のための助言」を受け、R6 年度には学生を構成員に含む教育プログラム評価委員会での指名(理念と目標)の確認を行い、医学部教授会 FD(KUROME)では学生代表がグループワークに加わって学習成果の見直しとコンピテンシーズについて議論を行った。

今後はこの見直しを受けた学修成果の修正・策定、そしてマイルストーンの策定などにも引き続いて学生が実質的に参加し続けられるよう、支援していくことが必要である。

4.1 入学方針と入学選抜

基本的水準	適合
-------	----

特色ある点

- ・一般選抜に加え、将来、世界の医学研究をリードできる人材を選抜する特色入試を行っている。

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

高等学校と大学との接続・連携を緊密なものとする「高大接続型」の入学者選抜として 2016 年度から始まった特色入試においては、高等学校での学修における行動と成果の判定のみならず、入学後に経験するカリキュラムや教育コースへの適応能力を判定し、高等学校段階までの能力及び医学部での教育を受けるにふさわしい能力並びに志を総合的に評価・選抜している。これは将来世界をリードできる人材を選抜・育成することを期待した特色ある取り組みであり、一般選抜学生も良い影響を受けているため、今後も継続する予定である。

改善状況を示す根拠資料

質的向上のための水準	部分的適合
------------	-------

特色ある点

- ・アドミッション・ポリシーは学務委員会、教育プログラム評価委員会で定期的に確認している。

改善のための示唆

- ・入学決定に対する疑義申し立て制度を採用することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

アドミッション・ポリシーは、地域や社会の健康上の要請に対応することを念頭に入れ策定されたものであり、京都大学医学部医学科では、基礎研究に従事する研究医の育成も重要な社会的責務として認識している。特色入試はこのような背景にも関連するものであり、アドミッション・ポリシーについては学務委員会、教育プログラム評価委員会などで定期的に確認を行っている。今後も時代や社会の要請に適したものであるか、定期的に確認していく予定である。

入学決定に対する疑義申し立て制度については、第 72 回国立大学医学部・医科大学事務協議会の承合事項にも挙げられた通り、全学一律の制度で実施している一般選抜において国立総合大学での制度としての疑義申し立て制度の導入には大きな困難が伴う。引き続き他の国立総合大学での状況を定期的に調査し、他学部の選抜や何より全国の受験者に混乱を招かないよう慎重に対応を検討する予定である。

改善状況を示す根拠資料

4.2 学生の受け入れ

基本的水準	適合
-------	----

特色ある点

- ・緊急医師確保対策としての入学定員増、ならびに研究医枠の定員増に対応している。

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

本学では、国からの医師数確保の要件による「緊急医師確保対策」への対応として 2009 年度に入学定員を 5 名増員した。さらに、研究医養成のための定員増(研究医枠)として、10 年間の時限付きで 2010 年度に入学定員を 2 名増やした。2020 年以降も、2024 年度入学者までは 2 名措置、2025 年度入学者からは 3 名の定員が措置されている。このように、学生受け入れ数の決定は、時代と社会の要請による本学に求められる役割と、国による医師数確保等の要件に応じて引き続き調整する。なお、受け入れ数が変化する際には、学生受入数と教員数がアンバランスにならないよう体制の確保に努める。

改善状況を示す根拠資料

質的向上のための水準	適合
------------	----

特色ある点

- ・なし

改善のための示唆

・なし
関連する教育活動、改善内容や今後の計画

4.3 学生のカウンセリングと支援	
基本的水準	適合
特色ある点	
・学年担当教員、臨床実習メンター、医学教育・国際化推進センター教員、学生相談室のカウンセラーなどによる学生カウンセリングが適切に行われている。	
改善のための助言	
・なし	
関連する教育活動、改善内容や今後の計画	
学生の就学上の問題全般に対しては、学務委員会委員を中心に学年別の学年担当教員制度を運用し対応している。学年担当教員に加え、学生本人、各教員、教務課などから報告された問題は、医学教育・国際化推進センターが中心となり、個別面談の機会を設け、問題の性質を見極めた上で、その後の対策を決定している。メンタルヘルスの問題を抱えていると疑われる学生に対しては、京都大学学生総合支援機構学生相談部門／学生相談センターのほか、2021年度に開設された医学部学生相談室、ならびに医学教育・国際化推進センターおよび精神医学教室の教員が密な連携を行い、支援している。今後も様々な学生支援部署が相互連携の下、適切に支援体制を維持していく。	
改善状況を示す根拠資料	

質的向上のための水準	適合
特色ある点	
・なし	
改善のための示唆	
・なし	
関連する教育活動、改善内容や今後の計画	

改善状況を示す根拠資料

4.4 学生の参加	
基本的水準	部分的適合
特色ある点	
・なし	
改善のための助言	
・使命の策定、教育プログラムの管理、学生に関する諸事項を審議する委員会に学生が参加し実質的に議論に加わるべきである。	
関連する教育活動、改善内容や今後の計画	
学生委員を含む教育プログラム評価委員会において、R6 年度会議にて使命の見直しの検討を行い、修正不要との結論となった。また、学修成果の見直しとコンピテンシーズについて R6 年度の医学部教授会 FD (KUROME) で議論を行う際に、学生代表もグループワークに加わり実質的に議論に加わった。(資料 4.4-1)	
改善状況を示す根拠資料	
資料 4.4-1.医学教育分野別評価準備ワーキンググループメンバー表	

質的向上のための水準	適合
特色ある点	
・「KS-CoM」の学生が医学教育の改善に関する意見を述べることや学生主導で新入生セミナーを企画・開催することを大学が支援していることは評価できる。	
改善のための示唆	
・なし	
関連する教育活動、改善内容や今後の計画	
2012 年に発足した「医学教育を考える学生有志の会:KS-CoM」は、各種アンケートの実施、新入生セミナーの企画、学会発表などの自主的な活動を行っている。また、KS-CoM のメンバーと医学教育・国際化推進センターの教員が話し合う機会を毎月設けており、学生の要望や意見を定期的に把握している。今後もこのような学生と教員が連携して医学教育を改善していく体制を維持する。	

改善状況を示す根拠資料

5. 教員

本学では競争的資金などにより、多くの特定教員を採用し、教育・研究体制を強化している。また、教育改革に関するワークショップを全教授の参加の下で毎年開催している。これらの特色ある取り組みを今後も続けていく。

また、領域 5.2 における「改善のための助言」を受け、R6 年度には教授以外の教員ならびに新任教員のための FD として、カリキュラム全体を十分に理解した上で教育に参加できるよう、カリキュラム全体を概観する内容のオンデマンド FD を配備した。さらに独自の取り組みとして、近い将来教員となる可能性が高い大学院生を対象に、教育に従事するティーチングアシスタント(TA)制度を活用して TA 研修の中で教員としての FD を開始した。今後はこのような FD についてさらなる強化と定期的な教員への啓蒙活動に努める予定である。

5.1 募集と選抜方針

基本的水準	適合
-------	----

特色ある点

- ・競争的資金などにより、多くの特定教員が採用され、教育・研究体制が強化されていることは評価できる。

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

京都大学医学部医学科では競争的資金などにより多くの特定教員を採用して教育・研究を強化している。2 巡目審査時点では定員内教員 380 名に対して特定教員 313 名を雇用していた。このような体制は研究者育成の観点からも効果的であり、引き続き外部資金の獲得と人材雇用・人材育成を推進していく。

改善状況を示す根拠資料

質的向上のための水準	適合
------------	----

特色ある点

- ・ 地域医療やプライマリ・ケアに関する教育を実施するため、広範囲の地域医療機関に所属する医師に「臨床教授・臨床准教授」の称号を付与している。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

他大学に類を見ない京都大学の特殊性として、近畿のみならず東海・北陸から四国・九州にいたるまで広範囲に関係病院を有し、さまざまな府県の地域医療に貢献していることが挙げられる。このような特色を活かし、地域医療の第一線病院で活躍する部長などに臨床教授等を務めてもらい、学生に地域医療の重要性を学ぶ機会を提供している。令和4年度改訂版医学教育モデル・コア・カリキュラムでも重視されている総合的に患者・生活者を見る視点、特に地域の視点とアプローチやプライマリ・ケアは大学病院だけでは学びにくい部分があり、このように広範囲の府県の医療機関に所属する医師を臨床教授、臨床准教授として称号付与する現行の方法が特に有用であると考えられる。

改善状況を示す根拠資料

5.2 教員の活動と能力開発

基本的水準	部分的適合
-------	-------

特色ある点

・「KUROME」と呼ばれる医学教育改革に関するワークショップが、全教授の参加の下で、毎年開催されていることは高く評価できる。

改善のための助言

- ・個々の教員はカリキュラム全体を十分に理解したうえで教育に参加すべきである。
- ・教授以外の教員ならびに新任教員の能力開発のためのFDを充実させるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

京都大学医学部医学科では、毎年、教授会の構成員全員が参加する形で京都大学医学教育ワークショップ(Kyoto University Retreat on Medical Education : KUROME)を開催し、最新の教育事情を共有するとともに学部教育について討論する機会を設けている。このように教育を担う教授陣が一堂に会してFDの機会を得ることは全国的に見ても非常に貴重な取り組みであり、今後も継続するとともに引き続き本学の教育に活かしていく予定である。

また、R6年度には教授以外の教員ならびに新任教員のためのFDとして、カリキュラム全体を十分に理解した上で教育に参加できるよう、カリキュラム全体を概観する内容のオンデマンドFDを配備した(資料5.2-1)。今後はこのようなFDについて新任教員へのアナウンスの強化に努める予定である。

さらに独自の取り組みとして、近い将来教員となる可能性が高い大学院生を対象に、教育に従事するティーチングアシスタント(TA)制度を活用してTA研修の中で教員としてのFDを開始した(資料5.2-2)。

改善状況を示す根拠資料

資料5.2-1.オンデマンドFD

資料5.2-2.2024年度Kyoto-NEXTティーチング・アシスタントの推薦について

質的向上のための水準	適合
------------	----

特色ある点

・なし
改善のための示唆
・なし
関連する教育活動、改善内容や今後の計画
改善状況を示す根拠資料

6. 教育資源	
京都大学医学部医学科では、附属病院以外に多くの幅広い連携施設が臨床実習施設として確保している。また、必要に応じて医学教育・国際化推進センターおよび附属病院の総合臨床教育・研修センター擁する医学教育専門家へアクセスできる体制が整えられている。海外との交流については、「マイコース・プログラム」や「イレクティブ実習」等において、多くの学生に機会を提供している。	
また、領域 6.1 における改善のための助言を受け、さらに安全な学習環境を確保するための教育プログラム改善を予定している。領域 6.2 における改善のための助言を受けての方策としては、CC-EPOC の活用以外に利用率向上を意識した簡便なシステムについても積極的に検討を進めていく予定である。	
6.1 施設・設備	
基本的水準	適合
特色ある点	
・カリキュラムを適切に実施するために充実した施設・設備が整備されている。	
改善のための助言	
・学生が研究活動を行う前に確実に必要な講習を受けるなど、さらに安全な学修環境を確保すべきである。	
関連する教育活動、改善内容や今後の計画	
京都大学医学部では、総合大学としての強みや多くの連携教育施設・研究施設を活用し、充実した施設・設備が整備されている。医学部構内には学生食堂や学生会館・医学プラザ、医学図書館があり、自主学習や交流の場も充実している。さらに附属病院だけでなく京都市内や府外の医療機関との連携により、多様な臨床実習が実施されている。このようにカリキュラムを支える充実した施設・設備を今後も確保していく。	
研究活動を行う前の準備については、さらに安全な学習環境を確保するため、以下の順で改善を進めていく予定である。①研究活動を行う前の講習に該当する内容について、全医学科生が受講する科目内で最低限の部分が実施されていることを確認する、②MD 研究者育成プログラムに参加する 1 回生に受講させるべき講習について検討を進める、③実際に使う研究活動に応じて、さらに本格的な講習(教員と同様の講習)を受講させるよう徹底する。	
改善状況を示す根拠資料	

質的向上のための水準	適合
特色ある点	
・なし	
改善のための示唆	
・なし	
関連する教育活動、改善内容や今後の計画	
改善状況を示す根拠資料	

6.2 臨床実習の資源	
基本的水準	部分的適合
特色ある点	
・附属病院以外に多くの幅広い連携施設が臨床実習施設として確保されている。	
改善のための助言	
・個々の学生が経験した症候や疾患分類を医学部として把握し、学生が適切な臨床経験を積めるように臨床実習施設を活用すべきである。	
関連する教育活動、改善内容や今後の計画	
<p>医学部附属病院の病床数は1,141床で精神科入院病床も有し、研究の面では医師主導治験・臨床研究も積極的に実施している。このように附属病院で臨床経験を積むことが可能な疾患は多岐に及び、あわせて高度専門医療、先端医療を提供している。さらに地域の視点とアプローチ、プライマリ・ケアを十分学べるよう、附属病院以外との連携を充実させ、地域医療も含めた一次から、二次、三次にいたる様々な医療現場を体験することができる。このように附属病院だけでなく多くの幅広い連携施設を臨床実習施設として確保することが重要であり、今後も連携を続けていく。</p> <p>個々の学生が経験した症候や疾患分類を把握する方策については、R7年度以降、以下の内容を予定している。 ①学内臨床実習における、共通様式の実習予定表を各科で作成できるよう準備を進める、 ②学生が経験した内容をチェックする一覧表を作成し、運用を開始する、 ③学外実習病院および附属病院での経験症例の記録を取る仕組みについて、CC-EPOCを含め、複数のe-portfolioシステムについて情報収集および検討を行う。</p>	
改善状況を示す根拠資料	

質的向上のための水準	適合
特色ある点	
・なし	
改善のための示唆	
・なし	
関連する教育活動、改善内容や今後の計画	
改善状況を示す根拠資料	

6.3 情報通信技術	
基本的水準	適合
特色ある点	
・情報基盤設備の整備が行われ、必要な情報へのアクセスが確保されている。	
改善のための助言	
・なし	
関連する教育活動、改善内容や今後の計画	
<p>京都大学では、「京都大学 ICT 基本戦略」において定めた教育の情報化に関する方針に基づき、情報教育に関わる基盤整備、および、教育プログラムの提供が行われている。これらの情報基盤は、教職員用 ID、学生用 ID が発行されれば、自由に利用することができる。臨床教育においては病院情報システムが利用されるが、京都大学医学部附属病院総合医療情報システム(KING)は、VDI(Virtual Desktop Infrastructure)環境を導入することで、2,500 台余りの設置端末に加えて、BYOD(Bring Your Own Device)でのカルテ閲覧等を可能な環境を実現している。医学部学生は KING アカウント発行により、上記 BYOD 端末を使って、各自で KING7 環境へのログインが可能である。また、学内 KUINS の Wi-Fi システムである、KUINS-Air による Wi-Fi 接続が医学部だけでなく、附属病院構内でも可能である。</p>	
改善状況を示す根拠資料	

質的向上のための水準	適合
特色ある点	
・学生が学内で各自の端末から電子カルテにアクセスできる体制が整えられている。	
改善のための示唆	
・なし	
関連する教育活動、改善内容や今後の計画	
<p>附属病院の全ての臨床情報は、病院情報システム上の電子カルテに全て収められ、教員や学生が活用することができる。学生への電子カルテのアクセスは臨床実習開始時に、あるいは、教員からの教育目的での要求に応じて発行された ID によって、限られた権限の下で、カルテの閲覧と記載を行う権利が与えられている。カルテアクセスのための端末は病院全体で充分に提供されているほか、病院内の指定された領域からの VDI 環境を用いた BYOD、すなわち、学生自身の持ち込みコンピュータによるカルテ閲覧も可能になっている。カルテの閲覧と記載は参加型臨床実習の基礎となる部分であり、今後もこのような体制を継続する予定である。</p>	
改善状況を示す根拠資料	

6.4 医学研究と学識	
基本的水準	適合
特色ある点	
・医学部の理念に則り、医学研究と教育が関連するビジョンを教員が共有している。	
改善のための助言	
・なし	
関連する教育活動、改善内容や今後の計画	
京都大学では「医療の第一線で活躍する優秀な臨床医、医療専門職とともに、次世代の医学を担う医学研究者、教育者の養成をその責務とする」との理念にある通り、すべての機会を通じて優れた医学研究者を養成している。医学の研究と教育との関係性を育む方針は京都大学医学部の主要なテーマであり、全教員が同じ方向性を持っており、方針が策定され履行されている。	
改善状況を示す根拠資料	

質的向上のための水準	適合
特色ある点	
・医学研究が現行の教育に反映されている。	
改善のための示唆	
・なし	
関連する教育活動、改善内容や今後の計画	
医学部4年次では7週間に渡り研究室での研究活動を体験する「マイコース・プログラム」を実施することにより、生涯にわたるリサーチマインドの涵養に努めている。選択コースであるMD研究者育成プログラムでは研究室紹介・基礎分子生物学実習後には開始するラボ・ローテーションの他、論文紹介やポスター発表などを行うことにより、生涯学習に不可欠な学術論文の読解訓練やプレゼンテーション訓練を行っている。また、5年次の1月時に行われる臨床実習レビューでは「研究者倫理」について医療情報学の専門家から研究者として身に付けるべき倫理観、利益相反や個人情報の取り扱いなどについて基本的な内容を学び、今後基礎・臨床研究を志す学生やそうでない学生に対しても研究と教育の相互関連を意識したカリキュラムを提供している。このようなカリキュラムの中で、科学的手法やEBMに関する学修を促進し、臨床におけるEBMの実践にもつなげることが可能となっている。	
改善状況を示す根拠資料	

6.5 教育専門家	
基本的水準	適合
特色ある点	
<p>・必要な時に「医学教育・国際化推進センター」および附属病院の「総合臨床教育・研修センター」の医学教育専門家へアクセスできる体制が整えられている。</p>	
改善のための助言	
<p>・なし</p>	
関連する教育活動、改善内容や今後の計画	
<p>教育を専門に行う部門として、医学研究科附属医学教育・国際化推進センターおよび附属病院の総合臨床教育・研修センターがあり、前者が主に卒前教育を、後者が主に卒後教育に関する実務を担当している。両センターに所属する教員には、医学教育学の専門家(日本医学教育学会認定医学教育専門家)が含まれている。また両センターとも、医学教育学分野の研究機関としても機能している。</p>	
改善状況を示す根拠資料	

質的向上のための水準	
基本的水準	適合
特色ある点	
<p>・学内外の医学教育専門家が実際に活用されている。</p>	
改善のための示唆	
<p>・なし</p>	
関連する教育活動、改善内容や今後の計画	
<p>卒後教育の指導医を対象にした厚生労働省主催の指導医講習会(ワークショップ)を附属病院が定期的に開催している。参加者は京都大学医学部附属病院の教員および京都大学の関係病院の指導医であり、これらには京大の臨床実習で指導に関わる臨床教授・准教授・講師なども含まれる。この指導医講習会は、医学教育・国際化推進センターおよび附属病院の総合臨床教育・研修センターの教員(医学教育専門家)が講師を勤めている。また、全学の教員を対象としたFDとして、毎年開催される教育シンポジウムには教育専門家も参加し、教育能力向上に寄与している。</p>	
改善状況を示す根拠資料	

6.6 教育の交流

基本的水準	適合
特色ある点	
<ul style="list-style-type: none">・海外での実習が、「マイコース・プログラム」や「イレクティブ実習」等において、多くの学生に提供されている。・「世界をリードする次世代 MD 研究者育成プロジェクト」で他大学の教員・学生との交流を行っている。	
改善のための助言	
<ul style="list-style-type: none">・なし	
関連する教育活動、改善内容や今後の計画	
<p>京都大学では、大学間・部局間とともに、世界各国の教育・研究機関と多数の交流協定を締結している。そして、協定締結機関との共同研究、学生交流、研究者交流、学術情報交換等を推進している。さらに、IFOM (FIRC Institute of Molecular Oncology)との研究連携や、World Health Summit (世界医学サミット)への日本代表としての参画など盛んに交流しており、興味のある学生は参加ができるようになっている。学生教育にかかる教員の交流には、ブラウン大学・チュービンゲン大学・京都大学の3大学で、教員と学生両面での交流が2015年度から開始され、継続している。国内教育機関との協力関係については、一例として「世界をリードする次世代 MD 研究者育成プロジェクト」(東京大学、京都大学、名古屋大学、大阪大学)にかかる大学間連携事業による他大学の教員・学生との交流が挙げられる。</p>	
改善状況を示す根拠資料	

質的向上のための水準	適合
特色ある点	
<ul style="list-style-type: none">・なし	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none">・なし	
関連する教育活動、改善内容や今後の計画	
改善状況を示す根拠資料	

7. 教育プログラム評価

京都大学医学部医学科では、教育プログラム評価委員会と医学部 IR 部門を設置して、教育プログラムの課程と成果をモニタする仕組みを構築している。教育プログラム評価委員会には主な教育の関係者の他、広い範囲の教育関係者として看護部代表者や教務課長、学外委員を含んでいる。

領域 7.1 における改善のための助言/示唆を受け、IR 部門のより具体的な活動について整理し、教育プログラム評価委員会との連携を通じて順次実行していく予定としている。領域 7.2 における助言/示唆についても IR 部門が中心となるが、従来の単純集計を超えたデータ分析と改善のための提案をその責務と認識している。領域 7.3 における助言/示唆については収集するデータの種類やその取扱いが重要であり、京都大学全学における業務上のデータポリシーの見直しの動向にも注意し、適切にデータを取り扱っていく。領域 7.4 における改善のための示唆については、従来の教育プログラム評価委員会の構成を損なうことなく、適切にさらに広い範囲の教育の関係者の意見をフィードバックできるよう、その体制を検討していく予定である。

7.1 教育プログラムのモニタと評価

基本的水準	部分的適合
特色ある点	
・教育プログラム評価委員会と医学部 IR 部門を設置して、教育プログラムの課程と成果をモニタする仕組みを構築している。	
改善のための助言	
・教育プログラム評価を実質化し、その結果をカリキュラムの改善に確実に反映すべきである。	
関連する教育活動、改善内容や今後の計画	
教育プログラムの課程と成果を定期的にモニタリングする仕組みとしては、まず学生への各種アンケート調査を毎年実施し、カリキュラムの重要な側面について、データを定期的に収集している。これらの結果は、教務課および医学教育・国際化推進センターIR 部門がまとめ、毎月実施される学務委員会、毎年実施される教育プログラム評価委員会、カリキュラム委員会へ報告している。このように、教育プログラム評価委員会と医学部 IR 部門が中心となり、教育プログラムの過程と成果を定期的にモニタリングできている。教育プログラム評価を実質化し、その結果をカリキュラムの改善に確実に反映するため、IR 部門の活動を継続するとともにカリキュラム委員会を再編し、より実効的なプロセスを確立していく予定である。	
改善状況を示す根拠資料	

質的向上のための水準	部分的適合
特色ある点	
・なし	
改善のための示唆	

・教育プログラム評価委員会と医学部 IR 部門を中心に教育プログラムを包括的かつ定期的に評価することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育プログラムの包括的かつ定期的な評価を実施するため、引き続き外部委員を含むプログラム評価委員会を定期開催する。また、IR 室が中心となって、学生の経時的な変化に関するデータを収集・分析し、教育プログラム評価委員会に提出できる体制を確立する。

改善状況を示す根拠資料

7.2 教員と学生からのフィードバック

基本的水準	部分的適合
-------	-------

特色ある点

・なし

改善のための助言

・教員と学生からのフィードバックを系統的に集め、十分に分析し、確実に対応すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

従来のカリキュラム評価アンケート(教員／学生)を継続した上で、単純集計以外にも IR 室が中心となり分析を行う予定である。

改善状況を示す根拠資料

質的向上のための水準	部分的適合
------------	-------

特色ある点

・なし

改善のための示唆

・教員と学生からのフィードバックの結果を利用して、確実に教育プログラムを開発することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

従来のカリキュラム評価アンケート(教員／学生)を継続した上で、単純集計以外にもIR室が中心となり分析を行う予定である。さらにその分析に基づき教育プログラム開発のための提案を行うこともIR部門の責務に含まれる。

改善状況を示す根拠資料

7.3 学生と卒業生の実績

基本的水準	部分的適合
-------	-------

特色ある点

- なし

改善のための助言

・使命と意図した学修成果、カリキュラム、資源の提供について、学生と卒業生の実績をより一層分析すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学生と卒業生の実績をより一層分析するため、在校生へのアンケートを継続するだけでなく、従来から実施している卒後2年目の卒業生アンケートの回収率を向上させるための工夫を実施する。具体的には所属診療科を通じた研修医への直接的な呼びかけなど、アンケートの意義をより確実に伝えることを予定している。

改善状況を示す根拠資料

質的向上のための水準	部分的適合
------------	-------

特色ある点

- なし

改善のための示唆

・学生の実績を分析し、学生の選抜およびカリキュラム立案について責任がある委員会へ確実にフィードバックすることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

まずR7年度には、「背景と状況」「入学資格」「選抜(の成績)」「カリキュラム(の成績)」「学生カウンセリング」について学生と卒業生に関して現在収集しているデータの中で、IR室に集約できるものかどの程度あるかを調査する。この際、全学での業務上データポリシーの見直しの結果も踏まえ、整合性のあるデータの取り扱い方に注意する。そのうえでR8年度以降に集計・分析を進める。

改善状況を示す根拠資料

7.4 教育の関係者の関与	
基本的水準	適合
特色ある点	
・教育プログラム評価委員会に教員、学生委員、看護部代表者、学外委員などが参加している。	
改善のための助言	
・なし	
関連する教育活動、改善内容や今後の計画	
教育プログラム評価委員会は、主な教育の関係者として、学部長、学務委員、医学教育・国際化推進センター教員、学生委員が参画するほか、「広い範囲の教育関係者」として、京大病院の総合臨床教育・研修センターの研修担当者、看護部代表者、教務課長、学外委員（教育関連病院の指導医および外部の医療系大学教育担当者）で構成されている。今後もこのような構成を確保・継続する予定である。	
改善状況を示す根拠資料	

質的向上のための水準	部分的適合
特色ある点	
・なし	
改善のための示唆	
・他の医療職、患者代表、地域医療の代表者など広い範囲の教育の関係者に、卒業生の実績やカリキュラムに対するフィードバックを求めることが望まれる。	
関連する教育活動、改善内容や今後の計画	
R7年度以降、公共並びに地域医療の代表者として、模擬患者団体からフィードバックを得る機会の設定を進める。また、学部教育部門長が出席する府内会議などで京都大学卒業生の実績やカリキュラムへのフィードバックを求めるようにする予定である。	

改善状況を示す根拠資料

8. 統轄および管理運営

京都大学医学部医学科では、教学における執行部として医学部長、副学部長を始め、学務委員会および「医学教育・国際化推進センター」の責務が明確に示されている。また、医学の発展と社会の健康上の要請を考慮し、「医学教育・国際化推進センター国際化推進部門」の外国人教員の再配置等を実施している。

領域 8.1 における改善のための助言/示唆を受け、カリキュラム委員会を再編し、その内規に具体的な所掌内容を明示し、今後は模擬患者団体からフィードバックを得る機会の設定についても検討を進める予定とした。その他、領域 8.2 における改善のための示唆を受け、R7 年度以降、執行部／リーダーの評価を使いと学修成果達成の観点から定期的に行う方策について検討する予定である。

8.1 統轄

基本的水準	適合
-------	----

特色ある点

- なし

改善のための助言

- カリキュラム委員会の具体的な所掌内容を明示すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2 巡目審査における改善のための助言を受け、カリキュラム委員会を再編し、その内規に具体的な所掌内容を明示した（資料 8.1-1）。

改善状況を示す根拠資料

資料 8.1-1.カリキュラム委員会内規

質的向上のための水準

部分的適合

特色ある点

- なし

改善のための示唆

- ・ 教学に関する委員会に、主な教育の関係者に加えて、他の医療職、患者、公共ならびに地域医療の代表者などの広い範囲の教育の関係者の意見を反映させることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

公共並びに地域医療の代表者として、模擬患者団体からフィードバックを得る機会の設定を進める予定である。

改善状況を示す根拠資料

8.2 教学における執行部

基本的水準	適合
-------	----

特色ある点

- ・教学における執行部として医学部長、副学部長を始め、学務委員会および「医学教育・国際化推進センター」の責務が明確に示されている。

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

京都大学医学部の運営と教育プログラムの運営の責任者は最終的に「医学部長(研究科長)」である。医学部長は、学部教育担当の副研究科長(副学部長)を置くとともに、学務委員会の委員を任命して学務委員会において学部教育の主要な業務を委ねている。学部教育担当の副研究科長が学務委員長を担当している。学務委員会は卒前教育に関わる諸事項を統括しており、毎月1回定例会議を開催している。京都大学医学部には医学教育・国際化推進センターが設置され、医学部長のもと、教育改善業務に従事している。医学教育・国際化推進センター教員は委員として学務委員会にも参加している。臨床医学教育には「京都大学医学部附属病院 総合臨床教育・研修センター」が組織されており、学生教育(実習)の一部を支援している。ここには医学部附属病院長のリーダーシップが及ぶ。学務委員会における審議・決定事項や、医学教育・国際化推進センターの活動報告など、重要な項目については教授会で審議が承されている。

改善状況を示す根拠資料

質的向上のための水準	部分的適合
------------	-------

特色ある点

・なし
改善のための示唆
・医学部長をはじめ教学における執行部の評価を、使命と学修成果達成の観点から定期的に確実に行うことが望まれる。
関連する教育活動、改善内容や今後の計画
R7 年度以降、執行部／リーダーの評価を使命と学修成果達成の観点から定期的に行う方策について検討する予定である。
改善状況を示す根拠資料

8.3 教育予算と資源配分	
基本的水準	適合
特色ある点	
・なし	
改善のための助言	
・なし	
関連する教育活動、改善内容や今後の計画	
改善状況を示す根拠資料	

質的向上のための水準	適合
特色ある点	
・医学の発展と社会の健康上の要請を考慮し、「医学教育・国際化推進センター国際化推進部門」の外国人教員の再配置等を実施している。	
改善のための示唆	

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

京都大学では、2014年度から国からの運営費交付金削減に伴う人件費削減への対応のために削減した定員の一部を、大学の機能強化のための戦略定員として再配置する取り組みを行った。医学研究科・医学部においては、定員削減へ対応しつつ、医学の発展と社会の健康上のニーズを考慮した要望を行い、再配置定員を獲得している。医学教育・国際化推進センターの学部教育部門に所属する教員1名と国際化推進部門に所属する外国人教員8名は再配置定員であり、医学部生の教育と国際化に寄与している。医学部における教育研究の進展及び充実を目的とし、寄附講座が開設されており、これらの講座の教員も学生の教育に参加している。寄附講座は社会からの要請を受けて設置されているものである。

改善状況を示す根拠資料

8.4 事務と運営

基本的水準	適合
-------	----

特色ある点

・なし

改善のための助言

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

改善状況を示す根拠資料

質的向上のための水準	適合
------------	----

特色ある点

・「大学評価部局委員会」を設置し、機関別認証評価、国立大学法人評価(第4期中期目標・中期計画にかかる自己点検評価を含む)を実施している。

改善のための示唆

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

大学の教育研究、組織運営及び施設設備の総合的な状況について、学校教育法に基づく、認証評価機関による評価を受ける「大学機関別認証評価(第三者認証評価)」、国立大学法人法の定めにより文部科学省の国立大学法人評価委員会による大学法人の業務の実績に関する評価である「国立大学法人評価」を受審している。このため、本学では京都大学大学評価委員会を置き、京都大学における教育研究活動等の状況に関する点検・評価を行っている。大学評価委員会は、評価担当理事が委員長となり、総長が指名する理事又は副学長、各部局から選出された教職員等の委員により組織されている。医学部においては、京都大学大学評価委員会規程に基づき、部局委員会となる大学評価部局委員会をおき、(1)自己点検・評価(外部評価を含む)に関すること、(2)国立大学法人法による国立大学法人評価に関すること、(3)学校教育法による大学機関別認証評価に関することなどについて、審議している。医学部は定期的に業務実績について現状分析を行い、本部総務部企画課は評価に関する情報の収集・分析及び統計処理の総括を行っている。

改善状況を示す根拠資料

8.5 保健医療部門との交流

基本的水準	適合
-------	----

特色ある点

・国、自治体の保健医療部門や保健医療関連部門、地域の医師会や外部病院との建設的な交流が持たれている。

改善のための助言

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

文部科学省や厚生労働省における審議会・委員会等に、委員、専門委員、科学官、学術調査官などの立場で多くの教職員が参加している。また、京都府に対しては、京都府医療対策協議会に病院長と医学教育・国際化推進センター副センター長が参加し、医療対策協議会に関連する京都府地域医療支援センター(KMCC)会議には医学教育・国際化推進センター副センター長と病院の診療科長(1名)が参加している。その他、附属病院の業務監督会議には京都市立病院院長、京都府医師会会长など地域社会の医療を担う機関の代表者の他、全国自治体病院協議会名誉会長、認定NPO法人ささえあい医療人権センター理事長など保健医療に関わる重要な外部委員に参加頂き、建設的な交流を継続している。京都府医師会(京都市には医師会組織がないため)とは、恒常的な関係を深めており、京都府医師会が行う研修医・専門医に関する企画に積極的に関与するとともに、学生に対して医師会長に毎年授業をお願いしている。医学部附属病院は、いわゆる指導医講習会を毎年2回開催しており、大学と学外実習病院の双方から同数の参加者を得ている。

改善状況を示す根拠資料

質的向上のための水準	適合
特色ある点	
・なし	
改善のための示唆	
・なし	
関連する教育活動、改善内容や今後の計画	
改善状況を示す根拠資料	

9. 継続的改良	
京都大学医学部医学科では、大学改革支援・学位授与機構(旧 大学評価・学位授与機構)による機関別認証評価を 2007 年度、2013 年度、2019 年度に受けている。また、2017 年度の医学教育分野別評価によって指摘された内容をもとに医学教育の自己点検評価を行い、継続的に医学教育改革を推進している。今後も 2024 年度に受審した医学教育分野別評価において指摘された内容をもとに、さらなる教育プログラムの評価体制の実質化を図り、継続的な改良を進めていく予定である。	
基本的水準	適合
特色ある点	
・教育プログラムの継続的な改良のための組織を構築し、課題の修正を行っている。	
改善のための助言	
・医学部 IR 部門を活用した教育プログラムの評価体制を実質化し、継続的改良を確実に進めるべきである。	
関連する教育活動、改善内容や今後の計画	
医学部医学科における自己点検・改善のシステムとしては、医学部医学科の教育について審議する学務委員会(毎月開催)において、毎回、授業・実習の現状と課題を報告のうえ審議し、その内容を教授会に報告している。さらに一巡回審査後に設置されたカリキュラム委員会と教育プログラム評価委員会には構成員に、学生や学外委員に参画いただき、幅広く意見を取り入れて改善に努めている。このような体制を活かし、基礎医学と臨床医学の並行/垂直統合、形成的評価と総括的評価の配分、予防医学など狭義の社会医学を含む行動科学、臨床実習のローテーション期間、令和 4 年度改訂版医学教育モデル・コア・カリキュラムへの対応、臨床実習の評価方法などについても議論と検討を進め、2024 年 2 月には医学教育・国際化推進センター教育に IR 部門が設置された。これにより、収集された情報の専門的な分析が可能となった。	

今後はこのIR部門の活動を実質化し、単なる情報の収集部署ではなく分析とそれを踏まえた提案を積極的に行うことで教育プログラム評価委員会やカリキュラム委員会と連携して教育プログラムの継続的改良を進めていく予定である。

改善状況を示す根拠資料

質的向上のための水準

評価を実施せず

特色ある点

改善のための示唆

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

改善状況を示す根拠資料